



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第199号

発行:2022年11月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

医療における被曝管理と診療放射線技師としての役割

新中川病院 放射線科主任 逸見 勝弥



新中川病院放射線科の技師として14年目を迎えました逸見 勝弥と申します。現在、当院は152の病床と外来に対し、常勤技師一名で業務を行っております。技師として初めての病院勤務ではありましたが入職時当院の福田院長より「当院の設備は最先端では決してありませんが、地域の人々に寄り添い支え信頼される職員を育て働きたいと考えています。だからこそあなたに来てほしい」という言葉は今でも思い出すたび、私の心に響き力となっています。また、その言葉は当院だけでなく鵬友会全体の理念にも繋がっていると考え、今後も微力ながら鵬友会一員として努力して参りたいと思います。

さて皆様、診療放射線技師と聞いてどのようなイメージが湧きますでしょうか。私たち診療放射線技師の業務は一般の方からの認知度は決して高くはなく、院内でも目立つ職種ではありません。そこで、診療放射線技師の業務について説明いたします。

診療放射線技師の業務は一般的に人体に放射線を照射します。これにより ①診療画像の提供 ②放射線治療を行うこと ③放射線被ばくの管理することを主な仕事としています。当院では①のX線を用いた一般（レントゲン）撮影、病棟での回診撮影（ポータブル撮影）、X線CT装置を用いた検査、健診などの撮影業務。③の患者様と放射線業務に携わる職員の被ばく管理を行っています。

特に近年患者に対しての被ばく管理に関してはより厳しく見直しされ、診療用放射線の安全管理体制整備について2020年4月1日から施行されています。この背景には日本のCTの保有台数は世界1位であること。日本は患者様が検査によって受ける被ばく線

量が全世界平均の6.45倍、アメリカの約1.3倍と高いこと。などが挙げられます。こうしたことからCT検査に関して患者様の被ばく管理が求められています。当院もX線CT検査は撮影ごとに被ばくの記録・管理を行い、医療被ばくガイドラインと比較しガイドラインの線量下になるよう適切な線量管理をおこなっています。検査を受ける患者様は医療上必要な放射線利用による被ばく線量には制限がありません。「その人にとってメリットよりデメリットが大きいと判断された場合は放射線を使ってもよい」とされます。

放射線防護三原則：正当化・最適化・線量限度のうち「正当化」いつ発生するか分からない障害や、がんのわずかな可能性を心配するより、目の前の病気を治すことの方が大事という考えです。

世界中で放射線を使って検査は行われています。医療で使われる放射線は危険が少なく、使うことの利益の方が十分大きいと世界中が認めています。それゆえ、技師は医師からの指示を受けて、ただ撮影するのではなく、検査を受ける方一人一人に対し可能な限り低線量・低被曝で検査を行い、医師の意図した情報を最大限に引き出し提供することが求められます。こうした一つ一つの検査・被ばくの管理を行うことで、患者様一人一人に寄り添い、ひいては地域の皆様に貢献できるという鵬友会の理念に帰結するのではないでしょうか。

今後も診療放射線技師として日々研鑽に励むとともに、放射線医療機器の管理だけでなく病院全体の機器管理を行う立場として、患者様や使用する職員も安心してできる管理体制を整えていきたいと考えております。

地鎮祭を執り行いました

大安吉日の令和4年11月7日（月）に2024年春開院予定（仮称）横浜ゆめが丘病院の地鎮祭を執り行いました。【※湘南泉病院の機能を移転・拡大する計画】

コロナ禍であることを考慮し感染対策を十分に行いながら、出席者全員で工事期間中の安全・無事故を祈願しました。湘南泉病院の理念である「地域住民をはじめ協力関係施設の皆様に、信頼される心あたたかい医療を提供するとともに、質の高い医療施設として発展に努めます。」「救急指定病院として、患者様・ご家族様の権利と生命倫理を尊重し、安心と安全な医療を提供します。」をなおいっそう進めていく所存でございます。



土地の神様を祀り、工事の無事進行と完了、また土地と建造物が末永く安全堅固であることを祈願いたしました。

完成予定図

